

○寶鏡三昧 (和訓)

▲如是によぜの法ほう。佛祖密ぶつそみつに付ふす。汝なんじいまこれを得えた  
り。よろしくよく保護ほうごすべし。▲銀盃ぎんわんに雪ゆきをも  
り。明月めいげつに鷺ろを藏かくす。類るいして齊ひとしからず。混こんずる  
ときんば處ところをしる。意言こころごとにあらざれば。來機らいきま

たおもむく。動どうずれば窠臼かきゅうをなし。たがえば顧こ  
佇ちよに落おつ。背觸はいそくともに非ひなり。大火聚だいかじゆのごとし。  
ただ文彩もんさいにあらわせば。すなわち染汚ぜんなに屬ぞくす。  
夜半正明やはんしょうめい。天曉不露てんぎょうふろ。物もののために。則のりとなる。用もち  
いて諸苦しよくをぬく。有為ういにあらざるといえども。こ

れ語ごなきにあらず。寶鏡ほうきやうにのぞんで。形影ぎやうようあい  
觀みるがごとし。汝なんじこれ渠かれにあらず。渠かれまさまさにこれ  
汝なんじよの嬰兒ようじの五相完具ごそうがんぐするがごとし。不ふ去きよ不ふ  
來らい。不ふ起き不ふ住じゆ。婆ば婆ば和わ和わ。有う句く無む句く。ついにもの  
を得えず。語ごいまだ正ただしからざるがゆえに。重離じゆうり

六りく爻こう。偏正へんしょう回互えご。疊たたんで三さんとなり。變へんじつきて五ご  
となる。莖草ちそうの味あじわいのごとく。金剛こんごうの杵ちよの如ごとし。  
正中妙挾しょうちゆうみょうきやう。敲唱かうしやう雙ふうびあぐ。宗しゆうに通つうじ途とに通つうず。  
挾帶挾路きやうたいきやうろ。錯然さくねんなるときんば吉きつなり。犯忤ほんごすべ  
からず。天真てんしんにして妙みょうなり。迷悟めいごに屬ぞくせず。因緣いんねん

時節。寂然として昭著す。細には無間にいり。  
大には方所を絶す。毫忽のたがい。律呂に應ぜ  
ず。いま頓漸あり。宗趣を立するによつて宗趣  
わかる。すなわちこれ規矩なり。宗通じ趣きわ  
まるも。真常流注。外寂に内搖くは。つなげる駒  
伏せる鼠。先聖これを悲しんで。法の檀度とな  
る。その顛倒にしたがつて。緇をもつて素とな  
す。顛倒相滅すれば。肯心みずから許す。古轍に  
かなわんと要せば。請う前古を觀ぜよ。佛道を  
成ずるになんなんとして。十劫樹を觀ず。●虎

の缺たるがごとく。馬の鼻のごとし。下劣ある  
をもつて寶机珍御。驚異あるをもつて鷲奴白  
牯。●羿は巧力をもつて射て百歩にあつ。箭鋒  
あいおう。巧力なんぞあずからん。木人まさに  
うたい。石女たつて舞う。情識の到るにあらずむ

しろ思慮をいれんや。臣は君に奉し。子は父に  
順ず。順ぜざれば孝にあらず。奉せざれば輔に  
あらず。潜行密用は。愚のごとく魯のごとし。▲  
ただよく相續するを▲主中の主と名く。